

2021年 入試改革

共通テスト 教科別「出題方針」

各教科の方針をダイジェスト！

旺文社 教育情報センター 2019年6月14日

大学入試センターは6月7日、2021年共通テストの出題科目・配点と同時に、各教科の出題方針等を公表した(「令和3年度 大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」。以下、「問題作成方針」)。同様の出題方針は1年前にも発表されているが※、当時は検討段階のもの。第2回の試行調査で検証がなされ、いよいよ本決まりになった。

なお、「問題作成方針」には共通テストの実施面の情報も含まれているが、それらは別の記事で紹介する。ここでは各教科の出題方針について見ていこう。

※大学入試センター2018年6月18日「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について」。

●全体的なポイント

共通テストではどのような問題が出されるのか。各教科の方針の前に、全体を通じて浮かび上がってくるポイント3点を見てみよう。

(1) 典型的な3タイプの問題

各教科の問題では、以下の場面設定が重視される。これらは検討当初よりずっと言われてきたことであり、共通テスト対策として、高校にとっては非常に重要なポイントとなる。

※(a)～(c)の「～型」は旺文社による。

- (a)「資料読解型」の問題 … 資料から必要な情報を抽出、比較、組み合わせる問題。
- (b)「問題解決型」の問題 … 日常生活の課題を解決する問題。
- (c)「対話場面型」の問題 … グループワークや議論の場面などを再現した問題。

(2) 多面的・多角的な考察

1つの解釈、1つの仮説だけでなく、さまざまな視点から考察することが求められる。重要なのはその考察の「根拠」だ。試行調査を見ても、共通テストの特徴は問題で扱われる資料の多さ。どの資料から何が読み取れるのか、何が言えるのか。根拠を明確にして仮説や見通しを立てたり、解釈を比較したり、総合的に判断したりする力が問われる。

(3) 知識の深い理解と活用

共通テストは思考力等を測る試験に全面的に移行するわけではない。従来のように知識を問う問題も出題される。ただしその意味や意義、ほかの事象との関連付けまで理解しておくことが必要だ。また、その活用も求められる。日常的な事象に概念や原理、法則を当てはめたり、教科書では扱わない初見の資料が出題されても、知識を活用して正確に解釈したりできるようにしておくことが必要だ。

それでは教科ごとに見ていこう。

●教科別 問題作成の方針

※以下、「問題作成方針」のほか、大学入試センター6月7日「共通テスト出題教科・科目の出題方法等」、文部科学省6月5日「共通テスト実施大綱」で示された内容を含む。

(1) 国語 =====

【試験時間】100分（現状80分）

【配点】マーク式；200点（変更なし）、記述式；段階別（新規）。

- ・マーク式の「近代以降の文章」は、文学的な文章、論理的な文章、実用的な文章。
【編集部注】マーク式は現状同様、「近代以降の文章＝2問100点」「古文＝50点」「漢文＝1問50点」。
- ・情報の多面的・多角的な解釈や、目的や場面に応じて文章を書くことなどを求める。
- ・言語活動の課程を重視。
- ・各大問では、複数の題材による出題も検討（1つの題材だけではなく、異なる種類や分野の文章を組み合わせた問題）。

《記述式》

- ・記述式を導入。
- ・小問3問で大問1問。
- ・出題は「近代以降の文章」のみ。実用的な文章、論理的な文章、または両方を組み合わせたもの。
- ・成績は段階別で表示（「小問ごと」と「大問全体」）。
- ・文章等の内容や構造を把握し、解釈して、考えたことを端的に記述。
- ・解答文字数は、最も長いもので80～120字程度。他の小問はそれより短く設定。
【編集部注】文字数については、これまでの2回の試行調査では3問とも示されていたが（「20～30字」「40～50字」「80～120字」程度など）、最長のみの提示となった。

(2) 地理歴史 =====

【試験時間】 60 分（変更なし） / 【配点】 100 点（変更なし） ※1 科目の時間・配点。

<地理 A、地理 B>

- ・地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視。
- ・地理的な事象の意味や意義、特色や関連について多面的・多角的に考察する力や、課題の解決に向けて構想する力を求める。
- ・「地域をさまざまなスケールから捉える問題」「知識を基に推論する問題」「資料を基に検証する問題」「系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題」などを含めて検討。

<世界史 A、世界史 B、日本史 A、日本史 B>

- ・歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視。
- ・用語を含めた個別の事実の知識だけでなく、その深い理解（意味や意義、特色や関連）や、総合的に考察する力を求める。
- ・教科書等で扱っていない初見の資料を出題することもある（学んだ知識を用いて考察）。
- ・「仮説を立て、資料に基づいて検証する問題」「歴史の展開を考察する問題」「特定のテーマについて時代や地域を越えて考察する問題」などを含めて検討。

(3) 公民 =====

【試験時間】 60 分（変更なし） / 【配点】 100 点（変更なし） ※1 科目の時間・配点。

<現代社会>

- ・現代社会の課題や、人間としてのあり方、生き方などについて多面的・多角的に考察する過程を重視。
- ・資料を読み解き、概念や理論等を活用して考察する力を求める。
- ・「図や表などの多様な資料を用いて、データに基づいて考察する問題」などを含めて検討。

<倫理>

- ・倫理的諸課題について、多面的・多角的に考察する過程を重視。
- ・資料を読み解き、先哲の考え方を手がかりに考察する力を求める。
- ・「倫理的な見方、考え方を活用して思考する問題」、「原典を含め、多様な資料を手がかりに、さまざまな立場から考察する問題」などを含めて検討。

<政治・経済>

- ・現代の政治、経済、国際関係等について、多面的・多角的に考察する過程を重視。

- ・資料を読み解き、概念や理論等を活用して考察する力を求める。
- ・「統計などの多様な資料を用いて、さまざまな立場から考察する問題」などを含めて検討。

<倫理、政治・経済>

- ・「倫理」「政治・経済」の方針を踏まえて問題を作成。

(4) 数学 =====

- ・ I、I A … 【試験時間】 70 分（現状 60 分）／ 【配点】 100 点（変更なし）
- ・ II、II B、簿記・会計、情報関係基礎
… 【試験時間】 60 分（変更なし）／ 【配点】 100 点（変更なし）

<数学 I、数学 I・数学 A、数学 II、数学 II・数学 B>

- ・数学的な問題解決の過程を重視。
- ・「問題解決の過程」… 事象の数量等に着目して数学的な問題を見出す、構想・見通しを立てる、数・式、図、表、グラフなどを活用して数学的に処理する、解決過程を振り返って得られた結果を意味づける、活用するなど。
- ・問題の題材は、「日常の事象」「数学のよさを実感できる題材」「教科書では扱わない定理を授業で学んだ知識を活用しながら導くことができる題材」などを含めて検討。

《記述式》

- ・記述式を導入。
 - ・数学 I の範囲で出題（⇒ 数学 I、I A の試験で出題）。
 - ・マーク式と混在させた形で小問 3 問。
 - ・成績はマーク式と同様に配点。
 - ・数式等を記述して解答。
- 【編集部注】これまでは数式のほか、短い文章を記述する問題も構想されていたが、第 2 回試行調査の結果報告書で「将来的に検討」とされた。

<簿記・会計>

- ・経済活動に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視。
- ・「簿記の基本的な仕組みについて理解を問う問題」「企業の日常の取引に関する記帳や、基本的な決算手続きを問う問題」を出題。
- ・「財務会計 I」の財務会計の基礎（株式会社の会計の基礎的事項を含む）についての理解も求める。
- ・「教科書で扱われていなくても、基本的な概念、原理、法則等を活用することで適正な会計処理ができる問題」などを含めて検討。

<情報関係基礎>

- ・情報と情報技術について、科学的な探究の過程を重視。
- ・出題範囲は、専門教育を主とする「農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉」に設定されている情報に関する基礎科目。
- ・「情報と情報技術の基本的な知識や考え方」「基本的なアルゴリズムの理解とそれを実現する方策」「プログラミングやアプリケーションソフトウェアを活用したデータの処理や分析」「問題解決の方法の理解」を問う問題などを含めて検討。

(5) 理科 =====

<物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎>

【試験時間】 2科目 60分（変更なし） / 【配点】 50点×2科目（変更なし）

- ・日常生活や社会と、科学との関連を考慮し、科学的な現象に関する概念、原理、法則などの理解、それらを活用して探究する過程についての理解などを重視。
- ・「身近な課題について科学的に探究する問題」「得られたデータを数学的な手法で整理する問題」などを含めて検討。

<物理、化学、生物、地学>

【試験時間】 60分（変更なし） / 【配点】 100点（変更なし） ※1科目の時間・配点。

- ・科学的に探究する過程を重視（科学の概念、原理、法則に関する深い理解を基に、自然現象の中から本質的な情報を見出す、課題の解決に向けて考察、推論するなど）。
- ・受験生にとって既知ではない資料を扱うこともある。
- ・「資料に示された現象を分析的、総合的に考察する問題」「観察、実験、調査の結果などを数学的な手法で分析し、解釈する問題」「科学的な現象に関する概念、原理、法則などの理解を問う問題」を含めて検討。
- ・これまで各科目で設定されていた、大問の選択は廃止。

(6) 外国語 =====

<英語>

【試験時間】 リーディング 80分（変更なし）、リスニング 30分（変更なし）
※リスニングは解答時間。ICプレーヤーの操作確認などの準備も含めた試験時間は60分。
【配点】 リーディング 100点（現状200点）、リスニング 100点（現状50点）

- ・「筆記」は「リーディング」に名称変更。「リーディング」と「リスニング」の2技能の評価を明確化。
- ・リーディングとリスニングを各100点の均等配点に（入試での比重は大学判断）。
- ・発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は出題しない。
- ・問題レベルはCEFR A1～B1。
- ・実際のコミュニケーションを想定した場面設定などを重視。
- ・リーディングもリスニングも、概要や要点、必要な情報を読み取る力を問う。

《リスニング》

- ・生徒の身近な暮らし、社会での暮らしに関わる内容。
- ・音声は、多様な話者による現代の標準的な英語。
- ・読み上げの回数は、1回読みの問題、2回読みの問題、両方で構成。
- ・すべてを1回読みにする可能性も今後検証。
- ・1回読みであっても、十分な読み上げ時間を確保し、重要な情報は形を変えて複数回言及。

【編集部注】これまでのセンター試験のリスニングは2回読み。第2回試行調査では難易度の高い問題（B1レベル程度）の方が1回読みで行われた。全体の解答時間は30分で変わらないが、「1回読みを導入→設問数の増加が可能に→配点アップが可能に（リーディングとの均等配点）」となった。なお設問数は、センター試験は2006年のリスニング導入以降、すべて25問（50点満点）。第2回試行調査では37問（100点満点）だった。

<ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語>

- ・従来どおり筆記のみ。リスニングは実施しない。
- ・実際のコミュニケーションを想定した場面設定などを重視。
- ・CEFR等を踏まえた力を問う。ただし大学教育の基礎力や、高校で初めて履修する者がいることも考慮して問題を作成。

(7) その他 =====

<マーク式の新たな出題形式>

- ・連続する問題で、前後の解答の組み合わせにより正答となる（正答の組み合わせは複数）
「連動型の問題」は出題する場合がある。

【編集部注】「新たな出題形式」は、この連動型のほか、「当てはまる選択肢をすべて選ぶ問題」も検討されていたが、2021年の出題は見送られた。要因は「消し跡」の問題で、マークが薄いのか、消しゴムで消した跡なのか判断がつかないため（現状のセンター試験は解答は1つなので、色の濃いマークが解答と判断される）。第2回試行調査の結果報告で「共通テスト当初からの実施は困難」とされた。

●2021年 共通テスト 出題科目／試験時間／配点

※下線は現在からの変更点

教科	出題科目	試験時間	配点	備考
国語	国語	100分 (現在は80分)	マーク式=200点 記述式=段階別 (現在はマーク式のみ200点)	●出題範囲は「国語総合」。 ●マーク式は「近代以降の文章=2問100点」「古文=1問50点」「漢文=1問50点」。 ● 記述式は近代以降の文章のみ。小問3問。
地理歴史	世界史A／世界史B／日本史A／日本史B／地理A／地理B	1科目選択=60分 2科目選択=130分 (解答時間は120分)	各100点	●2科目選択の場合、同一名称を含む科目の組み合わせは不可。 ●受験する科目数は出願時に申請。
公民	現代社会／倫理／政治・経済／倫理、政治・経済			
数学①	数学Ⅰ／数学Ⅰ・数学A	1科目選択= 70分 (現在は60分)	各100点(記述式含む) (現在はマーク式のみ100点)	● 記述式の出題範囲は「数学Ⅰ」。小問3問。 ●数学Aは次の3項目から2項目を選択。⇒「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」。
数学②	数学Ⅱ／数学Ⅱ・数学B／簿記・会計／情報関係基礎	1科目選択=60分	各100点	●数学Bは次の3項目から2項目を選択。⇒「数列」「ベクトル」「確率分布と統計的な推測」。 ●簿記・会計の出題範囲は、「簿記」および「財務会計Ⅰ」。「財務会計Ⅰ」の出題範囲は、株式会社の会計の基礎的事項を含めた、財務会計の基礎。 ●情報関係基礎の出題範囲は、専門教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目。 ●簿記・会計、情報関係基礎の問題冊子の配付を希望する場合は出願時に申請。
理科①	物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎	2科目選択=60分	各50点(2科目計100点)	●次のいずれかの選択方法で科目を選択。 【A】基礎2科目 【B】発展1科目 【C】基礎2科目＋発展1科目 【D】発展2科目 ●選択方法は出願時に申請。 ● 各発展科目にあった大問の選択は廃止。
理科②	物理／化学／生物／地学	1科目選択=60分 2科目選択=130分 (解答時間は120分)	各100点	
外国語	英語／ドイツ語／フランス語／中国語／韓国語	1科目選択 ●英語 ・リーディング=80分 ・リスニング=60分 (解答時間は30分) ●英語以外 ・筆記=80分	●英語 ・ リーディング=100点 ・ リスニング=100点 (現在は筆記200点、リスニング=50点) ●英語以外 ・各200点	●英語の出題範囲は、「コミュニケーション英語Ⅰ」「同Ⅱ」「英語表現Ⅰ」。 ●英語は原則、リーディングとリスニングの双方を解答。 ● 英語リスニングの問題音声は「1回読み」と「2回読み」のもので構成。 ●英語以外の問題冊子の配付を希望する場合は出願時に申請。

大学入試センター2019年6月7日公表「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等」、「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針」をもとに旺文社作成。